

■ 修士論文要旨

中国の長距離鉄道の歴史と鉄道文化

—日本と比較して—

History of Chinese Long Distance Railway and the Chinese Railway Culture

— A Comparison with Japanese Railway —

神奈川大学大学院 経営学研究科
国際経営専攻 博士前期課程

佟 妍 諾

TONG, Yannuo

時代の発展とともに、交通機関の種類もたくさんある。短距離の交通機関として、自転車、オートバイ、バス、タクシー、自家用車などがあり、長距離の交通機関は自家用車、鉄道、船、飛行機などがある。鉄道が1870年代に中国に登場してから、今までずっと大きな役割を果たしている。

中国鉄道の歴史は中華民族の閉鎖から開放までの過程をうまく説明できる。鉄道の建設は中国社会を国際的な地位に推し上げ、中国の経済発展に重大な意義を告げている。鉄道運輸は客運輸だけではなく、貨物運輸にも多く使われている。鉄道運輸により、企業の生産や物流に欠かせない存在となっており、国の経済発展に影響している。

中国現在の鉄道の発展は世界中でも注目されている。人々はただ優れているサービスを受けているが、今までの業績を得るには私たちの先祖はどれだけの努力を経験したということが知らない。鉄道の歴史に関する書籍を読みながら現代鉄道の発達を見れば、なんとなく中国人民が鉄道を発展させるための苦しさ分かるだろう。この先祖の努力した成果を我々は大切しないとけない。鉄道の発展史は中国の工業化、都市の経済発展と密接な関係があり、まだまだ研究する価値が

あると考えている。

鉄道文化は国の代表的な文化の一つで、他の領域の文化と比べてだんだん成長していくものである。中国の鉄道文化は近年発達しているが、まだ不足点がある。鉄道駅や列車の車内環境の改善が明らかに見えるが、駅員や乗務員のサービスがまだまだ向上させる必要がある。こういう鉄道文化を国策として補足する必要があると考えている。文化というのは、人間が社会の成員として獲得する振る舞いの複合された総体のことである。文化は人間が作り出したものである。一つの国の文化はその国の代表となり、たくさんの分野に分けられている。

交通機関は現代社会で人間の通勤・通学と旅行に大きな役割を立っている。特に鉄道は各国で、各自の特色で営業している。鉄道の歴史から見ると、人々が自国の鉄道歴史を知ることにより、自国の文化だけではなく、いろいろな教訓を得ることができる。鉄道発展の先進国では、鉄道に関する歴史を知ることにより、自国の強さと技術面での発展を通し、誇りに思うことが多い。逆に鉄道の発展が良くない国では、歴史で自国の不足点、改善点を知ることにより、自国の鉄道技術につい

でもっと研究して発展させるべきである。よって、鉄道発展をグローバル化についていけるよう、歴史に関する知識を知ることがとても重要である。

各国の鉄道文化にも大きな違いがある。日本と中国は隣国だが、鉄道に関する文化はいろいろな面で違う。国土の広さの制限で、日本の鉄道駅はほとんど百貨店などの地下や近くにある。中国の国土が広いため、駅は独自のビルで建てられている。日本は世界中で一番礼儀のある国であり、列車車内の文明を考え、車内で大きい声での談話、車内食事などは常識的に禁止されている。しかし中国人の特色は知らない人にも親切的に接することが常識的なものなので、車内での娯楽活動も日本よりもっと賑やかである。

鉄道文化は今まで発展してきて大きな変革を経験し、我々に鉄道に関する認識、教訓、と啓発を連れてきた。物質的な文化でも、精神的な文化でも、各国の間に違いがある。中国の高速鉄道は今まで発展し、ドイツや日本などの発達国家からたくさんの技術を手本として勉強してきた。昔の中国人は新しいものを受け入れないが、鉄道の出現をきっかけに外国からのいろいろな高技術をだんだん受け入れるようになってきた。これが進化というものである。外国から導入した技術や製品は自国にとって屈辱だと思ふ人が存在し、外国の製品を拒絶する。ここで言いたいのが、外国からの技術や製品導入は屈辱ではなく、それが導入する人の賢さである。時代が進歩している。世界中の国々は競争し合って協力し合っている。自国にない技術を外国から導入して勉強するのが必要である。そうでないと国が世界の進展に追いつかなくなる。

どの領域も同じである。今まで発展してきているが、その領域に関する歴史を研究して先祖たちの苦勞を知れば我々ももっと努力することができる。技術的な面でも、文化的な面でも、他の国と協力し合って、特色のあるものを作り出すのが我々の任務である。

鉄道の建設から管理まで、中国は「半軍事化管理」を実施しており、集中で効率が高い効果を得

るのが鉄道局の目的である。このような積極的な管理制度の下では、近年、中国の鉄道は技術面でも、文化面でも品質が上がっているが、先進国と比べるとやはり何か足りない。技術やサービスの向上には、外国の管理制度をもっと勉強したほうがいいと思うが、中国の「大家族精神」にも外国人が興味があり、勉強すべきではないかと考えている。

中国の「大家族精神」の形成は、やはり昔の戦争に深く関わっていると思う。中国人民共和国が成立される前にたくさんの戦争を経験した。植民地になり、国土が外国に占領され、あの時代から「団結は力」という言葉が出てきた。自分の国を守るため、国民の皆が団結し、全ての国民を家族だと思わないといけな。家族は人間にとって大事な存在で、失うことができない。こういう歴史があるこそ、今の中国人の「大家族精神」を形成した。

中国国内では中国国民みんなが大家族だが、世界からすれば、世界中の国々の国民は地球に住んでいる「大家族」である。我々は協力し、地球という大家族をもっと美しくするべきである。